

国ざかり

旧制9期 元駐フィンランド大使

高橋 正太郎

無法なイラクのクウェート侵攻のかけにも、イランとの戦争で中東第一の軍事大国となつたイラクがペルシヤ湾への出口を必死に求めていること、イラクが諸外国に出遅れてクウェートの独立を認めた時にも、国境線の確定はなされておらず、また、その出口にあたるブヒアン、ワルバの2島がその後も絶えず問題になっていたことが大きな尾を引いている。事態収拾にはこれらの取扱いが一番の決め手となるう。

この半島に住むアラブの人たちも、もとはオアシスを求めて移動し種族やグループ毎にそれぞれ地に根をおろし国を興したのであるうが、不思議なもので、何十年か経つうちに、それぞれの国の様子、人の体型から服装までお国振りが出てきて、暫く住んでいるうち我々外国人の目にも何国人かの大凡の見当がつくようになる。国という枠組みの中で醸し出される何物かが体に具現するのであるうか。

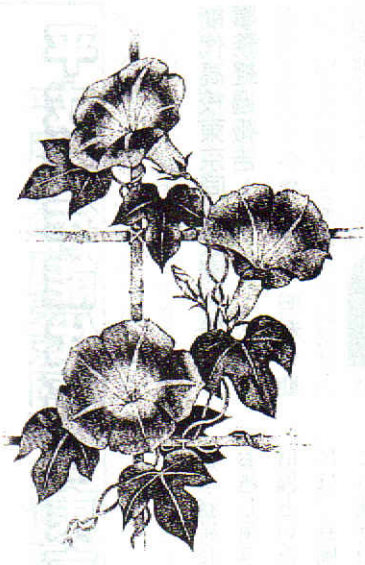
処で、我国はといえば、狭い島国の枠の内て単一民族が大陸文化と泰西文明を吸収融合し、敗戦後も、立地と技術、教育と勤勉とを活かし日米安保体制庇護の下で今や世界の経済大国となつたが、何しろ陸続きの隣国を持たず膚で外国を感じることに少ない日本は、得々として自国内の平和と安逸を貪り、内に籠もつて事すべて安易に流れる傾向にある。

今更引越す訳にも行かぬ日本としては、国民の一人一人がこの際島国の枠をとつばらう位の心構えで対処するしか活きる路はないのではなからうか。それには、

- (一) 東西緊張緩和の中でも国の安全保障のために求められるものは何か。
- (二) 物は豊富になつた世の中で、心の豊かさ、ゆとりは何によって得られるか。
- (三) 口先ばかりの「国際化」ではなく、身を一旦国の外に置いてみて、日本はどうあるべきか、どうすべきか(市場、流通、農業、金融、労働等すべての分野で)。

を熟考し果敢に行動することが必要であろう。

注・本稿は、湾岸戦争勃発前の昨年十二月にご寄稿頂いたものです。



平成元年能代高校東京同窓会総会開催

10月5日 午後5時
於・茗溪会館

能代高校東京同窓会開会挨拶・
事務経過報告

小林肇氏 旧制19期



どうもみなさん、お晩です。ただ今、司会の方からお話がありました通り、板倉会長がめずらしく体調を崩されまして、本日は欠席とのこと

でございます。十月の総会は年一回のことでもあり、会長ご自身たいへん楽しみにしておられましたのですが、今回だけはどうにもならないというお話でした。はなはだ未熟でございませうが、会長に代わりまして一言ご挨拶させていただきます。

本日は、能代のほうから、神馬同窓会会長をはじめ、統教頭先生、佐藤

藤事務局長、能代市長の宮腰さんにお越し頂きました。また、私どもが恒例といたしております恩師ご招待には、長岡幸作先生と大高芳雄先生にお運び頂きました。お二人の先生のプロフィールは、先日みなさま方に発送しました案内に詳しくご紹介させてもらいました。後ほど先生方のお話を頂戴する際、それぞれ先生の在校時のご様子などを、思い浮かべられてはいかかかと存じます。さらに能代北高同窓会松蔭会の齊藤会長はじめ、幹部のみなさんにもご出席を頂いております。本場にありがとうございます。

板倉会長であれば、もう少し気のきいたご挨拶をさしあげるところですが、何分にも急の会長代行の大役で、少なからずまごついております。あしからずご了承のほどお願い申し上げます。

先日、能代市で行われた能代高校の65周年同窓会総会にお招きに預かり、出席させて頂きました。非常に盛大でしかもみなさまが和気あいな

い、さすが地元の同窓会総会と、深い感銘に打たれました。その席上でも神馬会長より、「同窓会のあり方」についてうかがい、いろいろ有益なアドバイスを頂戴しました。東京同窓会としては、むずかしい問題も多々ありますが、今後とも利害関係がないみなさま方のための会として、自由がねなくお集まり頂ける場所にするのが、私たちの使命かと存じます。

また、今後永い発展継続のためにも、若い人たちにより多く集まって頂いて、新鮮な息吹を吹き込んで頂きたいと思っております。繰り返し申し上げますが、この会はいくらでも利害関係のない集いですので、特に同窓会の場を通じて、若い人に何をやってもらおうとか、何を期待するとかいうのではありません。ごく素直に自然に、年齢を越えた世代相互の交流が育まれることを期待するのであります。そのためにはどうするか。

今後はやはり母校の方々、地元の同窓会とも連携を保ちながら、年々母

校を巣立ってくる若い世代との接触をより緊密にする方法を、みなさまともども考えて参りたいと思います。

えー、総会予定としましては、ここで野球解説者の山田久志さんの講演が始まるところでございますが、申し訳ありません。まちがいはなくお見えになるというお約束でしたが、ただ今入った連絡では、もう一つ片づけなければならぬ仕事が残っているとのことです。マスコミ関係のお仕事は予期せぬ突発事項が当たり前と考えて十分気をつけたつもりではございますが、このような結果を招きまして、誠に申し訳ありません。事務局長として深くお詫び申し上げます。

会長の欠席・講演者の延着と、いづれも万やむをえぬ事情ではございますが、よろしくご賢察の上、今後われわれの同窓会活動に、益々のご支援ご協力のほどお願いいたします。

さて、引き続きまして、事務局からのお話をちよつと付け加えさせていただきます。現在の会員名簿には、約